

読者モデルの皆さんが体験 パースでシェア

パースに住む4名の読者モデルのシェア生活を紹介します。

その1 シェアハウス Share House

徐々に浸透してきてはいるものの、まだまだ日本では珍しいシェアハウス。でも、ここオーストラリアでは、一番身近なシェアの形の一つではないでしょうか。そんなオーストラリアでシェアハウスを楽しむ、本誌読者モデルの生活を覗いてみましょう。

シェアルーム ... 複数人が一緒に使う部屋
オウンルーム 自分専用の部屋

読者モデル **加藤 英梨香さん**

シェアメイト スコットランド人・日本人・台湾人
部屋のタイプ オウンルーム
家のタイプ 一軒屋



シェアハウスに住んだ経験はなかったが、始めてみたら人と一緒に住むことが楽しくなったという英梨香さん。専門学校で料理コースに通い、学校で作った料理を持ち帰って、シェアメイトと一緒に食べることもある。



シェアメイトと一緒にご飯。友達も呼んで賑やかに。



シェアハウスで飼うペットもシェアメイトと一緒に遊ぶ。

シェアハウスでの生活について

「私には、一人暮らしは寂しすぎてできない」と思ったのと、ホームステイでは食事の時間が決まっているなど、自由度が低かったので、シェアハウスで生活することを選びました。シェアメイトとはお互いの国の言葉を教え合い、「おやすみ」、「いただきます」などをそれぞれの国の言葉で言い合っています。自分の国に興味を持ってもらえる嬉しいし、親近感が沸きますね。あと、一日疲れて帰ってきても、「おかえり」と出迎えてもらえる温かみを感じるし、人とコミュニケーションをとることでストレス解消にもなります。仕事や学校の情報を共有することもでき、いつも助け合って生活しています。



動物園へシェアメイトと。家の外でもみんな仲がいい。

読者モデル **田畑 勝幸さん**

シェアメイト 韓国人・香港人・ブラジル人・日本人
部屋のタイプ シェアルーム
家のタイプ タウンハウス



ワーキングホリデーで来豪中の大学生。ホームステイを経験後、友達の勧めでシェアハウスへ移動。初めてのシェアルームは不安だったが、今では毎日充実したシェア生活を送っている。



シェアメイトも英語を勉強しているので、教え合うことも多い。



シェアメイトに髪を切ってもらった。このシェアメイトは美容師ではないけれど、なかなか腕前。

シェアハウスでの生活について

シェア生活をする前は、他の国の人と同じ部屋に住むなんて考えられなかったけど、始めてしまえば意外と大丈夫でした。また、オーストラリアに来る前は、英語でこんなに人とコミュニケーションが取れるようになるとは思っていなかったのですが、嫌でも英語を喋らなくてはいけないシェアルームで生活をするうちに、今ではブラジル人のシェアメイトと英語で冗談やバカ話をできるようにまですりました。特に困ったことはないですが、強いて言えば、シェアメイトが寝ている時に、たまにいびきをかくことがあります。でも、上から布団を被せればいびきは止まるし、僕もよく寝言を言うのでお互い様です(笑)。



時間が合えば一緒にご飯を食べる。お互いの料理を味見。